

すべての先進的な闘う学生は  
京大全共闘に結集せよ！

☆産協、国大協路線粉砕☆  
☆全学バリケード封鎖貫徹☆

1969.9.7

KYOTO UNIV.

No.9 ¥20-

# STRUGGLE

京大全学  
共闘会編  
書記局発  
行

☆大学治安立法粉砕☆  
☆入管法粉砕☆  
☆民青一右翼一秩序派粉砕☆  
☆奥田体制打倒☆

## 全共闘運動の組織的課題は何か

「全共闘運動」の組織的課題は何か。これは、全共闘運動の発展と成熟の鍵を握る重要な問いである。本誌は、この問いに答えるべく、第一期全共闘運動の経過と第二期全共闘運動の課題を、各大学の学生から聞き取り、本誌上で発表する。第一期全共闘運動は、1969年4月から始まり、1969年8月まで続いた。この間に、全共闘運動は、学生運動の中心として、全国的に展開し、多くの学生が参加し、多くの成果を挙げた。しかし、同時に、組織的課題も浮き彫りとなった。第二期全共闘運動は、1969年9月から始まり、1970年3月まで続いた。この間に、全共闘運動は、さらに発展し、多くの学生が参加し、多くの成果を挙げた。しかし、同時に、組織的課題も浮き彫りとなった。本誌は、この問いに答えるべく、第一期全共闘運動の経過と第二期全共闘運動の課題を、各大学の学生から聞き取り、本誌上で発表する。

### 第一期全共闘運動

1 1969年4月、京大の学生が、全共闘運動の中心として、全国的に展開し、多くの学生が参加し、多くの成果を挙げた。しかし、同時に、組織的課題も浮き彫りとなった。2 1969年5月、京大の学生が、全共闘運動の中心として、全国的に展開し、多くの学生が参加し、多くの成果を挙げた。しかし、同時に、組織的課題も浮き彫りとなった。3 1969年6月、京大の学生が、全共闘運動の中心として、全国的に展開し、多くの学生が参加し、多くの成果を挙げた。しかし、同時に、組織的課題も浮き彫りとなった。4 1969年7月、京大の学生が、全共闘運動の中心として、全国的に展開し、多くの学生が参加し、多くの成果を挙げた。しかし、同時に、組織的課題も浮き彫りとなった。5 1969年8月、京大の学生が、全共闘運動の中心として、全国的に展開し、多くの学生が参加し、多くの成果を挙げた。しかし、同時に、組織的課題も浮き彫りとなった。

### 第二期全共闘運動

1 1969年9月、京大の学生が、全共闘運動の中心として、全国的に展開し、多くの学生が参加し、多くの成果を挙げた。しかし、同時に、組織的課題も浮き彫りとなった。2 1969年10月、京大の学生が、全共闘運動の中心として、全国的に展開し、多くの学生が参加し、多くの成果を挙げた。しかし、同時に、組織的課題も浮き彫りとなった。3 1969年11月、京大の学生が、全共闘運動の中心として、全国的に展開し、多くの学生が参加し、多くの成果を挙げた。しかし、同時に、組織的課題も浮き彫りとなった。4 1969年12月、京大の学生が、全共闘運動の中心として、全国的に展開し、多くの学生が参加し、多くの成果を挙げた。しかし、同時に、組織的課題も浮き彫りとなった。5 1970年1月、京大の学生が、全共闘運動の中心として、全国的に展開し、多くの学生が参加し、多くの成果を挙げた。しかし、同時に、組織的課題も浮き彫りとなった。

第2期全共闘を清算せよ！  
全共闘の自然成長性を止揚せよ！  
全共闘組織を《パルチザン遊撃軍団—共産主義共同労働団》へと解体し、第3期—ツグイェト運動へ向けて、巨歩を進めよ！

反大学事務局 滝田 修

九大教授滝沢克己著  
大学革命の  
原点を  
求めて

羽仁五郎 都市の論理  
武谷三男著作集  
技術革新の根本問題  
われらの革命

西山卯三著作集  
三浦しづ子 マルクス主義の復原  
江藤 淳 崩壊からの創造

資料戦後学生運動  
第5巻：安保闘争篇  
安保・反戦・沖繩

三書房  
資料戦後学生運動  
第5巻：安保闘争篇  
安保・反戦・沖繩

